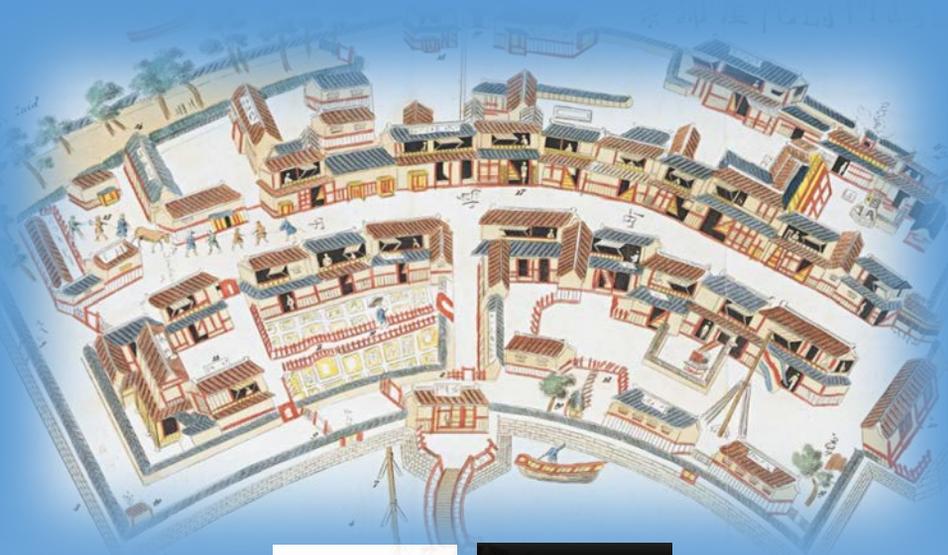


長崎大学医学部・大学院医歯薬学総合研究科
ヴュルツブルク大学医学部・大学院生命科学研究科共催

第3回 長崎大学-ヴュルツブルク大学合同シンポジウム —包括的で先進的ながんの診断・治療・予防に向けて—



会場:長崎大学医学部

2019年

4月15日(月) 9:30 ~ 良順会館2F ボードインホール

4月16日(火) 8:30 ~ 良順会館2F ボードインホール

長崎大学医学部とヴュルツブルク大学医学部は1996年から続く学生交流協定及び学術交流協定により、教職員・研究者交流、学生交流、共同研究、講演・シンポジウム等活発な交流を行っています。

長崎ゆかりのシーボルト先生の出身大学であるヴュルツブルク大学は特に核医学、免疫分野で世界をリードしており、今回はこの医学部・大学院生命科学研究科からフロッシュ医学部長はじめ世界の第一線で活躍中の研究者・臨床医十余名を招き、“包括的で先進的ながんの診断・予防・治療”に向けたシンポジウムを開催します。特に多くの学生、若手研究者・臨床医の積極的な参加のもと、日独共同大学院プログラム獲得を目指します。



問い合わせ：長崎大学医学部 研究高度化支援室 (MEDURA)

PHONE : 095-819-8513

<http://www.med.nagasaki-u.ac.jp/medura/>



後援：  大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館・長崎日独協会・長崎大学医師会・長崎百合野病院

第3回 長崎大学-ヴェルツブルク大学合同シンポジウム
-包括的で先進的ながんの診断・治療・予防に向けて-

2019年4月15日(月)-16日(火) 会場:長崎大学医学部 良順会館2F ボードインホール

4月15日(月)

開会の挨拶:9:30~

長崎大学学長 河野 茂

長崎大学理事・副学長 下川 功

長崎大学医学部長 永安 武

ヴェルツブルク大学医学部長 Matthias Frosch

ヴェルツブルク大学病院診療部長 Georg Ertl

記念撮影:10:20~

セッション1. がん治療法の改善:免疫療法と新たな分子標的療法:10:40~

がんに対する遺伝子改変T細胞の輸注療法

(池田 裕明)

PD-1免疫チェックポイント阻害剤と γ δ 型T細胞を用いたがん免疫療法

(田中 義正)

Targeted therapy using novel immunotherapeutic strategies

(Gernot Stuhler)

Immune checkpoint inhibitors - current and future use in thoracic tumors

(Rainer Leyh)

昼食 12:00~

13:50~

がん細胞の薬剤標的としてのミトコンドリア

(北 潔)

炎症関連 microRNA は黄色ブドウ球菌感染創における好中球機能を制御する

(森 亮一)

若手の研究者による発表

・肺がん脳転移をペリサイトが抑制している (佐藤 慧)

・がん脳転移評価モデルの開発 (松永 裕希)

セッション2. 放射線の影響を踏まえた治療の効果向上にむけて:14:50~

福島県で発見された若年者甲状腺癌における遺伝子変異

(光武 範吏)

Radiation induced thyroid cancer - lessons learned

(Christoph Reiners)

コーヒーブレイク

15:40~

原子力災害からの復興:川内村、富岡町での取り組み

(高村 昇)

がんの放射線治療における生物学的増感の研究

(益谷 美都子)

造血器に対する原爆放射線の長期影響

(宮崎 泰司)

若手の研究者による発表

- ・福島県富岡町「帰還困難地区」環境放射能測定 (崔 力萌)
- ・原子力災害避難指示解除地域住民の性別、年齢における帰還意向の検討 (松永 妃都美)
- ・The role of GM-CSF in the response of cancer cells after BNCT irradiation (Lichao Chen)
- ・オートファジーと癌治療 (北里 海雄)

4月16日(火)

セッション3. 放射線を使った画像診断・治療のプレシジョン腫瘍学への貢献 : 8:30~

肺癌の画像診断と化学放射線療法

(芦澤 和人)

Dual source-CT for assessment of bone marrow infiltration in hematological neoplasms

(Thorsten Bley)

造血髄過形成と骨転移の鑑別における化学シフトMRIの応用

(上谷 雅孝)

PET/CT and PET/MR imaging for monitoring response to treatment and target definition

(Andreas Buck)

腫瘍核医学：日本における問題

(工藤 崇)

Translational molecular imaging using radionuclide tracers: novel theranostic concepts

(Takahiro Higuchi)

コーヒーブレイク

セッション4. がん治療における間葉系幹細胞の利用 : 10:40~

幹細胞とがんの進展

(李 桃生)

放射線性唾液腺萎縮症に対する高機能細胞E-MNCによる細胞治療の開発

(住田 吉慶)

Tissue-specific vascular wall-resident stem cells and stem cell based micro-organoid models

(Süleyman Ergün)

The molecular regulation of the hematopoietic niche in response to radiation damage

(Matthias Becker)

若手の研究者による発表

- ・Postoperative systemic inflammatory response and tumor metastasis (Zhang Xu)

昼食 12:10~

セッション5. 精神的緩和ケア : 13:00~

緩和ケアにおけるチーム医療の現状と将来展望

(石井 浩二)

Palliative care in Germany

(Birgitt van Oorschot)

若手の研究者による発表

・Liquid phase separation of prion protein (丹下 寛也)

コーヒーブレイク

両大学の学術交流の発展 : 14:00~

フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト先生の若きヴュルツブルク時代と最初の長崎滞在
-知られた事実と新しい発見-

(Andreas Mettenleiter)

両大学間の学術交流の現状

(Barbara Moll、楠本 優子)

精神科領域での学術交流について

(Jürgen Deckert)

二国間共同研究・セミナーの獲得に向けて

(林 日出喜)

閉会の挨拶 : 14:50~

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科副研究科長 岩田修永

ヴュルツブルク大学医学部長 Matthias Frosch